

上部消化管内視鏡検査のための説明ならびに承諾書

【上部消化管内視鏡について】

様

検査を始める前に、胃内部をきれいにする水薬を服用し、スプレーの麻酔薬で喉の麻酔を行います。また腸管の動き（蠕動）を抑える筋肉注射または静脈注射をします。

検査を行なう時にはベッドに左下横向きで横になります。内視鏡（スコープ）を喉の嚥下運動に合わせてそっと挿入します。咽頭の反射の強い方はここが苦しいところです。空気を送気して食道、胃を膨らませて観察します。できるだけゲップを我慢して下さい。ゲップがでると検査時間が長くなり、また不十分な検査となります。

検査は目で見て診断し、写真を撮り、さらに組織検査を行うための生検からなります。出血している場合（食道静脈瘤、胃十二指腸潰瘍など）には薬剤を局所注射したり、止血用のクリップや輪ゴムでくくります。魚骨、クギ、薬の包み紙などの異物が認められる場合にはこれを取り除きます。

診断のための内視鏡検査でもごくわずかですが合併症がありえます。前処置で使用する薬剤でアレルギーや強い副作用を起こすことがあります。薬剤アレルギー、心臓病、不整脈、緑内障、前立腺肥大症、糖尿病のある方は申し出てください。大動脈瘤、脳動脈瘤などの力みを禁じられている方もご注意ください。

内視鏡の挿入に際して、咽頭反射により自律神経を介して心臓肺機能に少なからず悪影響がある場合があります。また喉は薄くて抵抗が弱く傷つきやすく破れやすいところです。緊張が強すぎて過呼吸のため手足がしびれることや、アゴがはずれたりすることがあります。

生検に際しては少量の出血はありますが、ときに相当な出血を伴うことがありますので検査後は便の色に気を付けてください。また脳血栓や心筋梗塞等で血液が固まりにくくなる薬を飲んでいる場合は必ず前もってお知らせください。

令和 年 月 日
担当医

【上部消化管内視鏡検査に対する承諾書】

上部消化管内視鏡検査についての説明を受け、内容を理解した上で、検査を受けることに同意します。

令和 年 月 日

[患者]氏名

[親族または後見人]氏名

(続柄)

紹介元 医師

様